新生ユニリタ、始動！どうぞよろしくおねがいいたします。

UNIRITA Magazine

ユニリタマガジン

4-5
APR-MAY 2015

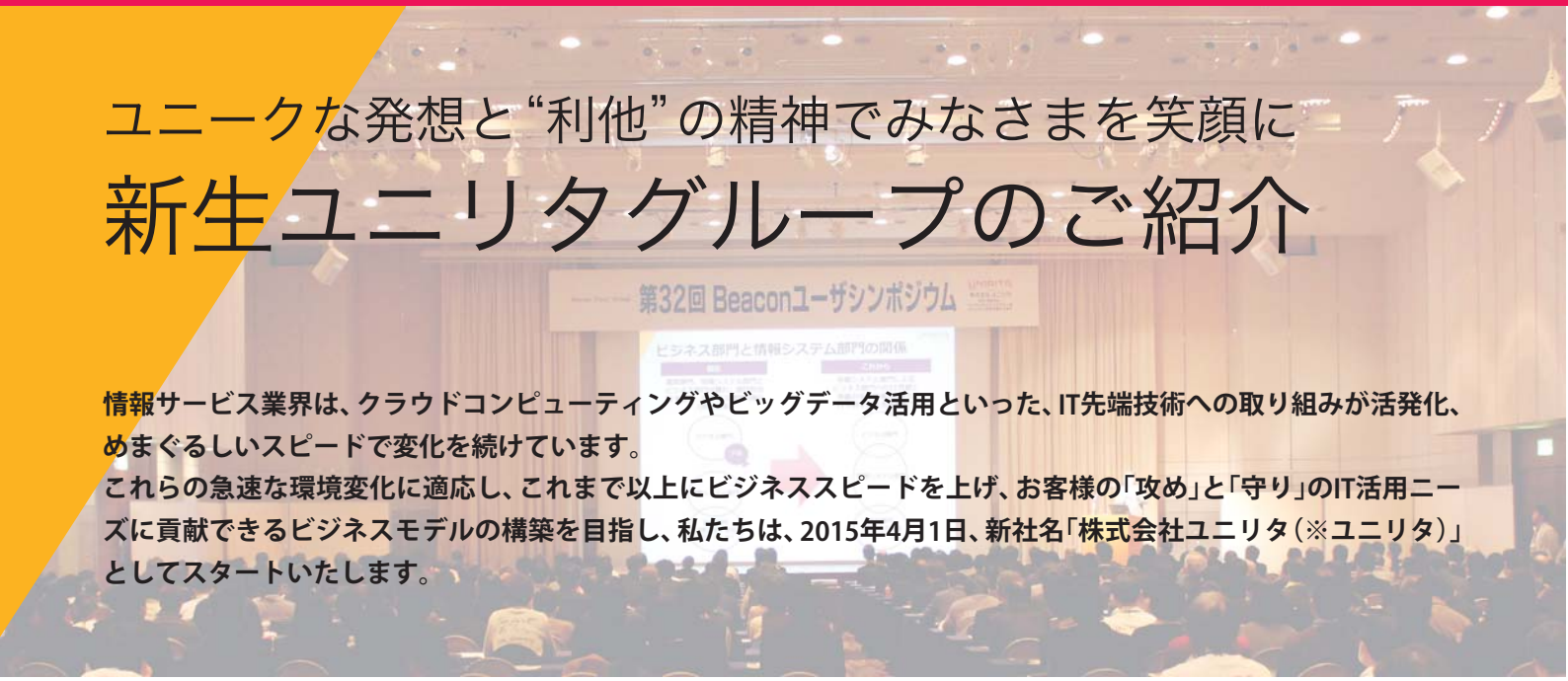
ユニークな発想と“利他”の精神でみなさまを笑顔に

新生ユニリタグループのご紹介

株式会社アーク情報システム様導入事例

ユニリタグループのセミナー＆イベント

新年度研究グループメンバー募集中!



ユニークな発想と“利他”の精神でみなさまを笑顔に

新生ユニリタグループのご紹介

情報サービス業界は、クラウドコンピューティングやビッグデータ活用といった、IT先端技術への取り組みが活発化、めまぐるしいスピードで変化を続けています。
これらの急速な環境変化に適応し、これまで以上にビジネススピードを上げ、お客様の「攻め」と「守り」のIT活用ニーズに貢献できるビジネスモデルの構築を目指し、私たちは、2015年4月1日、新社名「株式会社ユニリタ（※ユニリタ）」としてスタートいたします。

第32回ビーコンユーザシンポジウム（滋賀県大津市、大津プリンスホテル、2015年3月5日～ 3月7日）の全体会で、定時総会報告に続き、ビーエスピー代表取締役社長執行役員 竹藤浩樹、ビーコンインフォメーションテクノロジー代表取締役社長執行役員 新藤匡浩より、新生ユニリタの紹介や新しい提案やビジネス部門と情報システム部門の新たな関係について、また、最新のITトレンドを踏まえたユニリタが提供数する新しい価値について発表が行われました。

ユニリタグループのご紹介

「株式会社ユニリタは、ビーコンインフォメーションテクノロジー（※以下BIT）とビーエスピー（※以下、BSP）の2つの会社が4月1日に合併することによって誕生する会社です。これまで、BITはデータ活用の領域で、BSPはシステム運用の領域で事業を展開し、それぞれでお客様と一緒に歩む道を決め、事業を展開してきました。しかしながら、ITの活用がビジネスの優劣や競争優位性を決める大きな要因となる時代に、両社が一緒になることで、お客様へもっとよい提案ができるのではないかと考えました。4月から両社は株式会社ユニリタとして一つになります、日本に数少ない自社の開発した製品をパッケージにして提供していくソフトウェアメーカーとして、データ活用を通じ、デジタル社会でのビジネス貢献と、システム運用支援を通じ、業務効率化や生産性の向上を実現します。

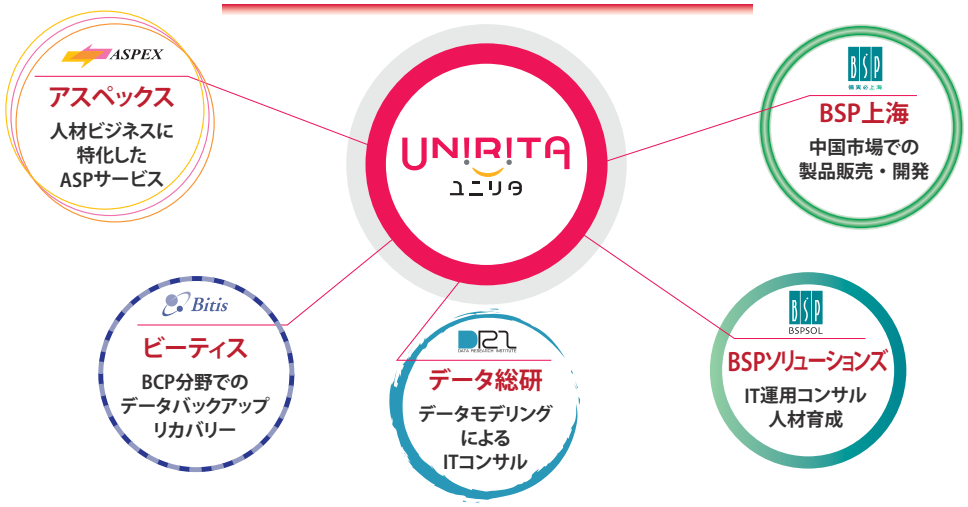
新生ユニリタグループは、6つの会社で構成され、データ活用とコンサルテーションのデータ総研、人材派遣に特化したASPビジネスモデルのASPEX（アスペックス）、それからBCPのBitis（ビーティス）、システム運用のコンサルテーションと人材育成のBSPソリューションズ、そして海外にはBSP上海があります。この各社が組み合わさりながら新しい事にどんどんチャレンジしていきます。」

IT投資効果を最大にする提案

昨今の日本企業のIT投資規模は、景気の回復感からも少しずつ増えていると言われています。日本情報システムユーザ協会（※以下、JUAS）の2014年度の調査データによれば、IT投資に対して、「よくなる」または、「投資していきたい」と答えたお

ユニリタグループ体制

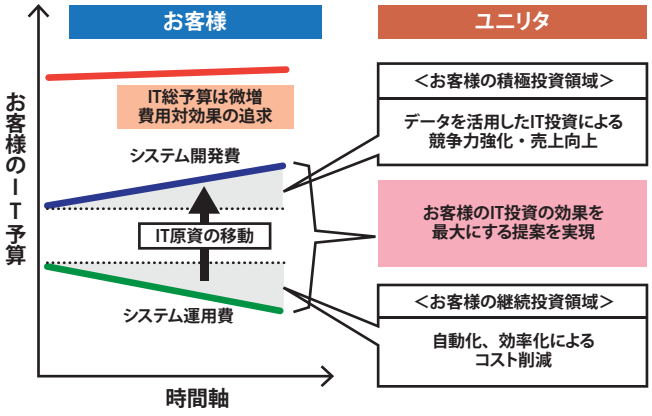
自社開発のパッケージソフトウェアメーカー



客様が42%、一方で、「減らす」、「まだ分からない」と言っているお客様も半数以上と発表しています。

「JUASのデータによれば、IT投資で解決したい中期的な経営課題として、リアルタイムに業績を把握、情報を分析する情報活用の領域と、業務プロセスの効率化や省力化、コスト削減など運用改善の領域が上位を占めています。ユニリタは、この経営課題に対し、データ活用や、ビジネスプロセスマネジメントなどの戦略的投資に対する提案と、膨れ上がった既存業務を集約、改善し、コストを減らしそれを新しいIT投資へ転換していただく、いわゆるIT投資効果を最大にする提案ができるのです。」

IT投資の効果を最大にする提案



ビジネス部門とIT部門で新しいマーケットを開拓する

様々な業界で常識とされてきた法則や手法が、ビッグデータによって打ち破られた事例を最近よく見かけるようになりました。商品の陳列方法や販売手法をはじめ、常識にとらわれない新しい発見のためのデータ分析が可能になりつつあります。

「成熟したマーケットで成熟したビジネスをやっているお客様に話を伺うと、新しいマーケットの開拓にいろんなことを考えていらっしゃるようです。

例えば、コンビニをよく使う若い方のデータと、あまり利用されない年配の方の行動データを分析、安価で少量のお惣菜を販売することで、年配の方も利用されるようになった例や、航空業界で話題のLCC（ローコストキャリア）格安航空会社を利用するお客様を分析すると、これまでの大手の航空会社を利用するお客様ではない方が頻繁に利用されている。サービスで差別化すれば、さらに飛行機を利用するお客様を増やすことにつながる、あるいは、メガネを掛けない人がメガネをかけるシーンや潜在的な需要を分析して、パソコンを使うときに掛けるメガネとか、花粉症対策用のメガネとか新しい商品を産み出す、いずれも、大量のデータとか行動パターンとかいろんな分析手法を合わせて新しいマーケットが創造され、さらには、既存のマーケットに対しても好い影響を与えています。

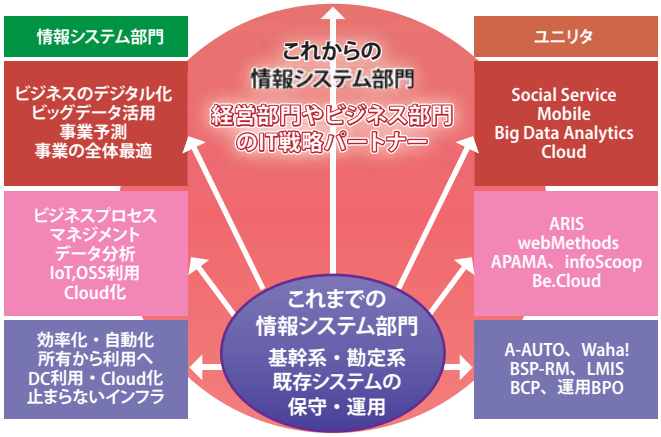
ビッグデータやモバイル、それからソーシャルサービスなどを組合せ、それをクラウド上ですばやく、手軽に、高精度に分析できれば、もっと新しいマーケット、いわゆる第3のマーケットが作れるかも知れません。ビジネス部門とIT部門が一緒になって事業を考えなければならない、そんなタイミングが来ていると思います。ポイントは、他社や既存のお客様の奪い合いではなく、新しいマーケットを作り出している、これは素晴らしいと思います。」

これからのIT部門を支えるユニリタ

インターネットで、IT部門に期待する役割について検索すると、「企画」と「システム構築・保守」の2つが上位にヒットします。企画は、ITのスペシャリストとして経営に必要な投資を提案することで、システム構築・保守は、他部門が企画したシステムの構築や保守、業務支援にあたります。IT部門が持つ役割はこれからも広がるようです。

「IT部門が持つ役割は、経営課題が新しくなることによって、もっともっと広がるでしょう。真にビジネス部門のパートナーになるためには、これまでやってきたシステムインフラの管理とか維持などの業務から脱却しながら、データ活用、ビジネスの変革へスピードを持って対応し、経営課題の解決に対応していくことが不可欠です。ユニリタも生産性の向上や、ITインフラの自動化などこれまでの役割についても継続して支援しますし、事業拡大のためのさまざまなテーマに対して、最新のITトレンドや業界動向に精通した優秀なコンサルタントを増やし、お客様の役に立ちたいと考えています。もちろん、今のままでは人材も不足しています。これからどんどん、新しい人材、新しい技術を取り込んでいきます。特に、ソーシャル、モバイル、ビッグデータアナリティクス、クラウド、この4つの領域に対しては力を入れていきます。ビジネスプロセスの改善や、可視化、自動化に国内外で実績のある製品やサービスも提供していきます、クラウドへの移行を支援するサービスなども提供していきます。もはや、新しいビジネスやマーケットの創造にITは不可欠です。これからのIT部門の役割を支え、有益な製品、サービス、人、情報を提供しつつ、皆様のビジネスチャレンジを支えてまいります。」

情報システム部門の役割を支えるユニリタ



株式会社アーク情報システム様

システム開発の新たな選択肢

企業ポータルをプラットフォームにした システム開発で ″小さな開発″ を実践

背景

クライアント企業様の Web システム開発案件

「infoScoop」はかなり以前から知っていたのですが、当時から、「infoScoop」が持つガジェット連携というコンセプトに興味を持っていました。これは、システム連携をシステムのバックエンドではなく、ブラウザ上のガジェットを通じルーズにシステム連携する機能で、この特徴的なプラットフォーム上に対し何か効果的な利用方法はないかと考え、「infoScoop Open Source」などを利用し自社製品との連携検証などを行ってきました。

そんな折、2013 年 9 月、今回のクライアントである株式会社マーキュリー（以下、マーキュリー）様からシステム提案の依頼をいただきました。

マーキュリー様の提供する「リアナビ」は、2009 年よりサービスを開始した不動産業向けクラウド型情報ポータルサイトです。

「リアナビ」では Google マップと連携し、物件情報などを地図上にマッピングする機能を有していますが、提案時は Google が 2014 年 9 月をもってサービスを停止した「Google Maps API for Flash」を利用していたため期日までに早急にシステムを再構築する必要がありました。

要件としては、Flash の廃止と Javascript や Ajax などオープンなアーキテクチャを採用し、今後のシステム環境に柔軟に対応することができること、そして Flash で実現しているブラウザ上のウィンドウ間でデータ連携し情報の表示を行うといった現行の機能を 100% 再現できることでした。

このような要件のもと、「リアナビ」の画面を見た瞬間、これは「infoScoop」が有効に利用できると確信し提案することを決めました。

【リアナビ】http://realnavi.biz/

選定理由　クライアント（マーキュリー様）の評価

マルチデバイスに対応

マーキュリー様では他に数社の提案を受けていたようですが、最終的に当社の提案を選んでいただいた理由としてタブレットやスマーフォンなどのマルチデバイス対応が大きかったとお聞きしています。

以前のシステムでは Flash を利用していたため、タブレットなどでは動作しませんでした。

企業ポータルである「infoScoop」をベースに開発したことで、特にコンテンツのマルチデバイス対応をすることなく、自動的にデバイスごとに最適化できるのは大きなメリットだとお考えいただけたとのことです。

Corporate Data

株式会社アーク情報システム
ビジネスクラウドイノベーション部
担当部長
田中　豊久 氏

株式会社アーク情報システム
ビジネスクラウドイノベーション部
グループリーダー
篠原　幸太 氏

“ガジェットによる小さな機能を集約するということで、様々なアイデアが出てくるということを体感しました。infoScoop を多くの開発ベンダーが様々な用途でカスタマイズして使えるようになると良いですね。”

株式会社アーク情報システムは、1987 年の創業以来、エンジニアリング分野での信頼と実績をベースに、変化し続ける環境に対応するべく常に必要とされる最適なソリューションとサービスを提供し、お客様の課題解決とビジネス革新に貢献し続ける独立系ソフト会社です。

名　　称：株式会社アーク情報システム
設　　立：1987 年 10 月 14 日
従業員数：130 名（2014 年 10 月 1 日現在）
資 本 金：3 億 600 万円（2014 年 10 月 1 日現在）
URL：http://www.ark-info-sys.co.jp/

導入効果①　クライアント（マーキュリー様）の評価

機能やサービスごとのアクセスログを取得

2014年9月に「リアナビ」のカットオーバーを迎えましたが、マーキュリー様にはご満足いただけたと考えております。

デザイン面では以前の「リアナビ」を再現することができ、ユーザインターフェースの標準化をすることでユーザの操作性の向上を図ることができました。

また、各ガジェットのアクセスログが取得可能となりました。これにより、今までできなかった機能やサービスごとの利用頻度を把握することが可能となり、今後の開発・拡張計画の指針となっています。

そのほか、以前は機能追加や障害対策などのシステムメンテナンスのたびに数時間単位でサービスを停止する必要がありました。しかし今回のガジェット連携によるシステム構築を行ったことにより、機能ごとの影響範囲を最小限に抑えることでメンテナンス性が向上しました。

現在ではサービスを停止することなく、システムメンテナンスが可能となり、ノンストップでのサービス運用を実現しています。

導入効果②　開発者としての評価

システム開発の新たな可能性
ガジェットごとの〝小さな開発〟

今回、「infoScoop」の大きな特徴でもあるガジェット連携によりシステム開発を行うことでシステム開発の新しい可能性を感じました。

これからの情報システムは、ユーザごとのニーズに最適な専門性の高い機能（ソリューション）が求められます。しかも、そのニーズは目まぐるしく変化し、その変化にシステムは対応しなければなりません。

「infoScoop」をプラットフォームにしたシステム開発では、ユーザ管理や画面描画など、システムの基幹的部分を「infoScoop」の基本機能より実現し、システムが必要とする機能のみをガジェット開発により実装することで、非常に早く、手軽にシステム開発することが可能になります。すぐに開発を始められる手軽さが大きな魅力だと思います。

さらに「infoScoop」ではオープンなアーキテクチャを採用していることから、先鋭的な技術との親和性に優れ、システムに容易に実装することが可能です。

「新しいアイデアを迅速に〝形〟に表すことができる」、そんな可能性を「infoScoop」の利用したシステム開発に感じています。

開発者の育成にも効果的

ガジェットという小さな機能の集合体となったことで、開発に携わったメンバーからもたくさんのアイデアが出てくるという効果がありました。これによりメンバーの育成にも一役買えているというのが良いと考えています。

今後のIT業界では技術者の育成は急務だと思います。そのためには、技術者がすぐに使えて簡単に試すことができる環境が必要です。Try&Errorを繰り返すには、ガジェットという独立した小さな機能が果たす役割は想像以上に大きかったと思います。

infoScoop を利用したガジェット開発

今後の課題

クライアント（マーキュリー様）の課題

今回、構築された「リアナビ」からガジェットごとにアクセス権限を設定することが可能になり、より細かなアカウント管理が可能になりました。

マーキュリー様でも、この機能を利用しアカウントごとのカスタマイズした画面を提供するパーソナライズや、有償ユーザと無償ユーザに対して提供するコンテンツを分けるなど、サービス内容を区別することでより多様なユーザニーズに対応することができる運用を検討しています。

開発者としての課題　更なる適応範囲の拡大

今回、「infoScoop」を基盤にしたシステム開発を体験したことにより、その開発生産性の高さを実感しました。

これから、さらに経験を積むことで、より効率よく短納期でシステム開発を行うことが可能になるのではと期待しています。

意外な発見として、Flashで作成されたWebシステムのマイグレーションに向くのではないかと考えています。FlashのActionScriptとJavaScriptは共通点が多く、大きな負荷がかからず移植が可能でした。

今後、モバイルファーストの時代になることでFlashからのマイグレーション案件のニーズにも対応できるのではないかと考えております。

このように様々なWebシステム構築の課題に対して「infoScoop」による新しい技術の導入を行い、今までではできなかった課題解決を目指して積極的に採用していきたいと思います。

すでにいくつかの案件を提案中ですので、また新しい事例の報告ができればよいと考えています。

●お客様各社の導入事例をホームページでご紹介しています。 ▶▶▶ http://www.unirita.co.jp/case/

おすすめセミナー＆イベント一覧

ユニリタグループが主催するセミナー情報をお知らせします。最新のテーマやシステム運用、情報活用における課題解決方法など、旬の内容を詳しくわかりやすくご紹介します。
最新の知識習得はもちろん、ビジネスに効く製品やサービスの検討にもご活用ください。

Pickup

ソリューション紹介セミナー

システム保守コストを増大させる要因を取り除き、保守業務を効率化させるための施策についてご紹介します。

ＩＴ部門にとって、保守・運用業務のコスト削減はかねてから主要課題のひとつではありましたが、経営からの削減要請は今後も一層強くなるものと考えられます。従来のコスト削減施策は、ハードウェアやソフトウェアの費用削減、オフショアを主体としたアウトソーシングによる労務費の削減などの短期的な費用の圧縮が中心であり、保守・運用業務自体の改善は、本格的には取り組まれていませんでした。

一方、保守・運用業務の現場では、ブラックボックス化しているシステムを属人的にメンテナンスしている場合が多く、担当者間での情報共有はあまり行われていません。また、情報システムの適用範囲の広がり、ビジネス変化への対応によるシステムの複雑化などにより、ますます高度なノウハウやナレッジが必要になると予想されます。

これらを解決するためには、まずは、業務およびシステム仕様の可視化による保守ナレッジの蓄積と保守作業の標準化を行い、担当者間のコニュニケーションを活性化させて属人性を排除することが有効です。このような保守プロセス改善活動が、保守のＱＣＤ（品質、コスト、納期）向上に繋がります。本セミナーでは、データ総研が考える保守業務全体の問題点とその施策などのコンセプト、コンサルティング事例、保守ナレッジの可視化に有効な手法やツールをご紹介いたします。

開催概要

システム保守プロセス改善セミナー【東京】
～保守業務の改善と効率化の施策教えます～

日時	**2015 年 5 月 22 日㊎** **14：00 ～ 17：00（受付開始 13：30 ～）**
場所	**データ総研セミナールーム** 東京都中央区日本橋小伝馬町 4-11 サンコービル
費用	無料
主催	株式会社データ総研
共催	ジーティーワン株式会社

主なプログラム

1. 保守プロセス改善と効率化の施策
- IT投資と保守の実態と問題点
- 保守に必要な情報
- データ総研が考える保守効率化のための対応策

2. 保守プロセス改善のための設計知識の整理と活用
- 設計知識・ドキュメントの現状と問題点
- ３つのポイント「整理」「継承」「共有」
- 知識共有のためのリポジトリ（事例紹介）

3. 可視化ツール徹底解説！
システム可視化で保守生産性大幅ＵＰ!!
- 製品紹介とデモ
- 導入事例紹介 など

セミナー詳細はホームページをご覧ください。

人材育成　BSPソリューションズセミナー（有償）

BSPSOL　人材育成セミナー　検索

●ITサービス提供者のマネジメント力育成コース
5月20日㊌～ 21日㊍　ITIL®2011 EDITIONファンデーション 資格対策講座

●ITサービス提供者の提案力育成コース
6月10日㊌～ 11日㊍　要件ヒアリング編

◎上記セミナーのタイトル・講演内容は変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

Beaconユーザ会

新年度研究グループメンバー募集中!

～ 1社から複数名の参加もＯＫ！～

昭和52年のBeaconユーザ会発足当時より活発な研究活動が行われている、Beaconユーザ会 研究グループ平成27年度新メンバー募集が開始されました。ユーザ会会員企業の皆様のご参加はもとより、会員でないユーザ企業におかれましても、この機会にぜひともご入会いただき、研究グループ活動や当ユーザ会の様々な企画に参加され、ユーザ会活動を有効に活用されることをお勧めいたします。

なお、第1回目の研究グループ会合「春の全体会」（研究グループKickoff）が、下記の日程での開催を予定しております。ご不明な点がございましたら、ユーザ会事務局へお問い合わせください。多くの皆様のご参加を心よりお待ち申しあげております。

研究グループ活動について

●メンバー数5名から約10名で研究グループを構成
●毎年5月からスタートし、各メンバーの会社を持ち回りで研究活動を実施
●ユニリタの担当がコーディネータとして参画
●7月から11月くらいの時期に任意で合宿などを行い、研究を深める
●3月にユーザシンポジウムで成果発表
●活動に沿って「グループ活動費」や「合宿補助費」を支給（書籍代・会合費など）

平成27年度研究テーマおよび研究内容一覧

情報活用研究部会：　あらゆる情報をビジネスの中に効果的に活用する方法や技術・事例をテーマにした研究グループ活動

システム運用研究部会：　ビジネスに貢献するITサービスの実現に向けたシステム運用と管理方法に関する技術・事例をテーマにした研究グループ活動

東日本地区：情報活用研究部会

●これからのIT
●要件定義を考える
●セキュリティ技術の基礎
●クラウド&オンプレミスの連携
●JavaScriptによるMVCフレームワーク
●女性だからできるデータサイエンティスト
●BPMによる企業・システムの変革
●高速開発基盤が引き起こす情報システム部門のあり方
●企業内データの活用

東日本地区：システム運用研究部会

●運用管理事例
●IT部門のプロアクティブな活動による企業価値の向上
●サービス視点による、全体最適アプローチの研究
●運用設計研究
●ハイブリッドクラウドの適用技術
●運用管理のオートメーション化を考える
●運用ナレッジの活用・整備
●システム運用での顧客満足度向上への取り組み
●システム運用での障害事前防止・予兆・回避

中部地区：情報活用研究部会/システム運用研究部会

●多様化するITサービスの継続的な品質改善
●ビジネス要求の変化に対応する為のシステム開発手法
●IT部門から見るクラウドコンピューティング活用における課題
●企業に貢献するIT

西日本地区：情報活用研究部会

●HTML5アプリケーション開発入門
●ビッグデータ・アナリティクス入門
●次世代システム間連携の考え方
●業務変革とIT活用

西日本地区：システム運用研究部会

●活きた運用ナレッジからの改善実践!
●クラウド時代の業務、運用、開発部門の活動融合
●運用部門だから起こせる一意のシステム設計図面

● 詳しくは、「Beaconユーザ会ホームページ」をご覧ください。　**http://www.beaconuser.jp/**

ユニリタの動画配信サービスが5月からパワーアップ!

Webinar UNIRITA リニューアルのお知らせ

Webinar UNIRITA（ウェビナーユニリタ）は、UNIRITAグループが提供するセミナーやイベント動画をWEBで配信するサービスです。Webinar UNIRITAで配信されているセミナーは、５分程度で視聴可能なコンテンツから、ライブイベントで行われた基調講演のフルタイム動画までを幅広いプログラムをご用意しています。

動画の視聴はパソコン以外にも、スマートフォンやタブレットなどの各種デバイスにも対応しておりますので、アクセス＆クリックで視聴可能なコンテンツを多数準備しています。視聴後に気になった動画で使われた資料やスライドを請求することもできます。また、技術的な内容の多いプログラムは、音声とテキストの両方で視聴可能です。音の出しづらい環境やビジネスパソコンの仕様でも内容を理解しやすくなっています。

現在提供中のデータ活用やシステム運用、クラウドサービス、ITサービスマネジメント、システム企画などをテーマにしたコンテンツに加え、今年5月には新たにソリューションプログラムや、プロダクトコンテンツも拡充、新規のお客様から、弊社製品やサービスを利用中のお客様まで幅広くご活用していただけます。いずれのコンテンツも、IT活用による成功へのノウハウを提供中です。業務や通勤の合間にチェックすることで、貴社のビジネス課題の解決に是非お役立てください。

現在配信中の主なコンテンツ

クラウドサービス

クラウドサービスの導入にあたっては、「どのサービスを選んだらいいのか?」「どうやって既存システムを移行するか?」は、大変悩ましい問題かつ慎重な検討が求められます。そこで本チャンネルでは、「クラウド導入後のあるべき姿」を描くための「クラウド移行の勘所」や「サービスを選定する際のポイント」、「導入後の活用事例」を紹介しています。

データ活用

データ活用は、企業の競争力を高め、ビジネスを成功へと推進する力があります。企業を取り巻くIT環境は、クラウド、ビッグデータなど、より複雑化する中で、本チャンネルでは、企業におけるデータ活用の成熟度に合わせた、データの管理、統合、活用を推進する具体的な実践内容をご紹介します。

2015年度もシステム管理者認定講座で効果的な人材育成を

システム管理者認定講座の2015年春講座の募集を開始しました。システム管理者認定講座は、受講者のレベルに応じた3つのレベルを設定しており、ご自身の実力を試す場としてや、上位のスキルを身に着けるためと、目的にあったコースを選択されています。

SysAdmin's Group

● **詳しくは、「システム管理者の会ポータルサイト」をご覧ください。** **http://www.sysadmingroup.jp/**

株式会社ユニリタ www.unirita.co.jp

UNIRITA

本社	〒108-6029	東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟	TEL 03-5463-6383
大阪事業所	〒541-0059	大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル	TEL 06-6245-4595
名古屋事業所	〒451-0045	名古屋市西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(旧48KTビル)	TEL 052-561-6808
福岡事業所	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東2-2-2 博多東ハニービル	TEL 092-437-3200

ユニリタグループ　株式会社アスペックス ／ 株式会社ビーティス ／ 株式会社データ総研
備実必(上海)軟件科技有限公司 ／ 株式会社ビーエスピーソリューションズ

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。
※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

©UNIRITA Inc. 2015.4　MG-1504-1500-1